

新型コロナ 若い世代に広がり

20・30代の新規感染者 17都府県ステージ4

新型コロナウイルスの感染者が若い世代に広がっている。20日までの1週間の10万人あたりの新規感染者数を20、30代にかけてみると、17都府県で最も深刻なステージ4（感染爆発段階）相当だった。東京、大阪、京都、兵庫の4都府県に緊急事態宣言が出たが、この地域以外でも行動範囲の広い若者を中心とした感染が広がることが懸念される。

内閣官房のまとめでは、14～20日の1週間で、10万人あたりの全世代の新規感染者数がステージ4の指標（25人）になつたのは東京

（32人）、大阪（89人）、京都（30人）、兵庫（58人）、奈良（45人）、和歌山（30人）、徳島（31人）、沖縄（54人）の8都府県になると、

これに対し、厚生労働省の資料から14～20日の20、30代にかけて計算すると、8都府県に埼玉（28人）、神奈川（26人）、愛知（31人）、岐阜（26人）、滋賀（28人）、岡山（28人）、愛媛（31人）、福岡（25人）、佐賀（26人）の9県も加わる。

このうち福岡は24日時点で、全世代でも26人でステージ4相当になつた。

新型コロナ対策を議論する厚労省の専門家組織は、夜間の飲食だけでなく職場や学校の部活動、サークル活動などで感染が広がっていることが影響していると

し、「高齢者層への感染の波及が進むと、重症者数がさらに増加する可能性が高い」と指摘する。

新潟大の斎藤玲子教授

（公衆衛生学）は、変異ウイルスの影響もあり、これまで以上に感染の広がりがやい可能性があるとする。「対策しなければ、今までの想像を超えて患者が増えてしまうかもしれません」。大型連休中の帰省や旅行、イベントによって世代や地域をまたいで感染していくことに懸念を示す。

一方、専門家組織は変異株の20歳未満への感染のしやすさは、従来のウイルスと変わらないとする報告を出した。国立感染症研究所の資料によると、国内で報告された変異株の感染者を5歳ごとにわけ、人口10万人あたりの割合を比較したが、従来のものと大きな差はなかつたという。日本小児科学会も、英国では変異株の感染が子どもに特別多いわけではないとする見解を示している。（市野塊）